

令和4年度
学校だより
No. 4



照葉樹

校訓 心を照らし 人を照らし 未来を照らす

令和4年 6月 3日
福岡市立照葉北小学校
校長 久保田 篤

ハラハラ、ドキドキと感動の第4回運動会！

学校がコロナ禍で様々な制約を受けるようになって2年余り経ちますが、今年はやっと全校児童が揃って第4回の運動会を実施できました。また、本校区にある福岡市総合体育館のご厚意で、特別に会場をお借りすることができたため、今年は2日間に分けた2部制で実施するに至りました。

第1部の「走」では、5年生の障がい物走から始まりました。カーブを曲がるのも大変ですが、カーブを過ぎるとハードルを次々と越えねばなりません。ハードルにつまずく児童もいましたが、みな一生懸命に走りぬくことができました。

1年生と2年生は、コースごとにトラックの真ん中を一直線に走るかけっこでした。両学年とも6学級と人数も多かったので、出番を待つ時間やトラック内の移動も大変だったようですが、出番が来ると、ゴールで待つ先生を目指し、懸命に走る姿が微笑ましかったです。

3年生は初めてトラックのカーブを曲がる徒競走でした。スタートは横一列ですが、カーブに向けてみなインコースを取りたいところです。コースに分かれた直線のかけっこの大きな違いです。見ていると、やはりぶつかって転んでしまう子が出ましたが、中にはぶつかった後に転ばせてしまった子を気にして振り返り、その子の後をついて走る優しい子もいて、温かな気持ちになりました。

そして4年生と6年生はリレーで競い合いました。リレーはバトンパスが勝敗の大きな鍵となります。4年生は初めてのリレーに悪戦苦闘しながらも、仲間とバトンをつないで頑張りました。バトンパスの点では、やはり6年生はさすがでした。第1部の最後で、勝敗の鍵を握っていただけに、プレッシャーもあったことだと思いますが、みなよく頑張りました。

そして27日の第2部は、第1部で優勢だった白組を赤組が追う展開となりました。見ていて本当に驚きましたが、特に玉入れでは1年生がたった1個差で赤が勝つという奇跡の展開を見せたり、6年生では何と全くの同数となったりして大変盛り上がりました。その後白も挽回しましたが、最終的には全体競遊の「小玉送り」で競り勝った赤が勝利を収めました。

また、各学年とも練習では表現活動（ダンス・集団演技）に一番力を入れて練習を重ねてきましたので、更にお子様の成長した姿をご覧いただけたのではないのでしょうか。

2年生はボンボンを使って、ノリノリのダンスを披露してくれました。ダンスのリズムにボンボンの音が合わさり、かわいさ満点のダンスでした。4年生はビシッとした黒い衣装をまといソーラン節を踊りました。しっかり腰を下ろして、練習の成果を発揮してくれました。



大活躍の応援団！

3年生も黒Tシャツで心を揃え、手持ちの太鼓を用いてエイサーを踊り、沖縄の風を運んでくれました。そして5年生はGO!GO!フラッグで、見事な旗裁きを見せてくれました。各カラーの旗がバサッという音とともに翻る様は、大変カッコいい姿でした。1年生はツバメを表現した笑顔のダンスでした。手に付けたリボンが小さなツバメをよく表していて、可愛らしさが倍増でした。最後の6年生は「魅魁（みかい）」の集団演技でした。コロナ禍で以前のような「組体操」のようなガッチリ組み合うような表現活動はできなくなりましたが、そこはさすが6年生。動きや揃え方に工夫を凝らし、圧巻の演技となりました。

運動会終了後に私の近くの保護者がこんな意味のことを言われました。「赤組に負けた後の、白組が赤組を称えるような清々しい表情が印象的でした。」また運動会終了後、フロアでは応援団の解団式が行われ、応援団一人一人が一緒に頑張ってきた仲間に対して言葉を述べていた時でした。私のすぐ後ろで見ていた2年生の中の誰かの声がふと聞こえてきました。「ぼく、あのみたいになりたい!」と。私としても、本当に嬉しい反応でした。

保護者の皆様には、最後まで応援頂き、また協力員として登下校の見守りや会場使用後の消毒等でご協力頂き、本当にありがとうございました。運動会で成長した子どもたちを、次は学習でさらに伸ばしていけるよう、職員一丸となって指導にあたって参ります。

命輝く季節に、命の学習

日が長くなり、間もなく夏至がやってきます。動植物が生き生きと躍動するこの季節、どの学年も生活科や理科の学習などを通して、動植物の飼育や観察を行っています。

1年生はアサガオ、2年生はミニトマト、3年生は大豆とモンシロチョウ（アオムシ）、4年生はツルレイシ（ゴーヤ）、5年生は稲とメダカ、6年生はジャガイモを教材にしています。



登下校も自分のミニトマトの生長が楽しみ!

私は毎朝東門や正門に立って子どもたちに挨拶をしています。2年生の子どもたちの多くは、登校すると真っ先に自分のミニトマトの鉢をのぞき込み、生長具合を確認して水やりをしています。既にほとんどの鉢で黄色の花がいくつも咲き、小さな青い実をつけています。毎日自分のミニトマトのお世話をし、その生長を観察することによって、収穫できるその日を楽しみに待ちながら、命の不思議さを感じてくれているようです。



命を実感する5年生



血が通っているメダカの卵!

また、5年生はメダカの飼育・観察をしています。メダカの卵は、肉眼ではカズノコの粒と変わらないような薄黄色の小さな卵ですが、日を追うごとに変化し、やがて肉眼でも目玉となる2つの黒い点を確認できるようになります。

5年生の先生は、顕微鏡のような「ミクロピクス」という機材を活用して、メダカの卵をスクリーンに大きく映して観察させています。スクリーン大になると、なんと目と目の間にある心臓がドクドクと動くのが見え、赤血球の粒が血管を流れていくのも見えるのです。その段階になると、時々卵の中で稚魚がクルッと動く時もあり、小さな卵にもちゃんと一つの命が宿っていることを実感できます。学習での感動を大切にしたいと思います。